

浜の活力再生プラン
令和6～10年度
(第3期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	佐伯地区地域水産業再生委員会 米水津地区作業部会
代表者名	部会長 嶋原 隆之（大分県漁業協同組合 米水津地区漁業運営委員長）

再生委員会の構成員	大分県漁業協同組合、佐伯市、大分県、南部漁業青年協議会、佐伯地区漁協女性部連絡協議会
オブザーバー	—

対象となる地域の範囲 及び漁業の種類	【地域の範囲】 佐伯市米水津地区（大分県漁協米水津支店） 【漁業の種類】 小型底曳網漁業(4 経営体)、小型定置網漁業(7 経営体)、船曳漁業(4 経営体)、中小まき網漁業(1 経営体)、潜水漁業(16 経営体)、たて網漁業(12 経営体)、一本釣り漁業(15 経営体)、その他漁業(4 経営体)、養殖(3 経営体) 延べ 66 経営体（令和5年11月30日現在）
-----------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

米水津地区は大分県南部に位置し、リアス式海岸特有の地形に恵まれ、水産業では豊後水道を漁場として以前からまき網を中心とした漁船漁業、ブリ・ヒラメ・カワハギ・トラフグを中心とした養殖漁業、イワシ・アジの丸干しを中心とした水産加工業が盛んに営まれてきた。中でも全国第2位の生産量を誇る大分県の養殖ブリにおいて、米水津地区は県下のブリ養殖発祥の地として、現在も独自に開発した特殊餌料を与えて育てた養殖ブリが市場で高い評価を得ている。

しかし、ここ数年来は、漁業資源の減少、魚価安、水産物需要の低迷に加え、燃油や養殖餌料、漁業資材等が高騰するなど漁業を取り巻く諸情勢は大変厳しく、漁業経営は厳しい状況が続いている。

(2) その他の関連する現状等

米水津地区は、漁業や水産加工業を基幹産業とした漁村地域であり、特に干物等を生産する水産加工業においては、県下最大の産地となっている。しかし、近年は少子高齢化が進行し、生産人口の減少が懸念されている。

一方、観光客を増やすための取組として、漁業者によるしらす井の販売や、民宿によるイセエ

ビ料理の PR 等、食観光の推進が行われている。

また、毎年 10 月に開催される米水津おさかなまつりでは、地元水産物や加工品を提供するブースが多数設置され、約 1 万人の来場者を集める人気イベントとなっている。

物流・交通アクセスについては、県道 501 号線（色宮港木立線）を主としており、陸路での輸送が主になっている。

3 活性化の取組方針

（１）前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

1 漁業収入向上のための取組

(1) 漁場の管理・改善の取組

- ① 種苗放流方法の改善等を図りつつ、藻場造成等による生育環境の整備とあわせて実施することにより漁獲量の向上を目指す。
- ② 藻場造成、海岸清掃、赤潮警戒等により良好な漁場環境を維持、改善し、もって漁獲高の向上に取り組む。

(2) 付加価値向上の取組

- ① 未・低利用魚について、加工処理施設の閑散期を活用するなどして有効利用と単価向上を図る。
- ② 大分県特産物のカボスを用いた「かぼすブリ」等、養殖魚をブランド化することで差別化を図り、更なる魚価の向上を図る。
- ③ 佐伯市観光協会が実施する「東九州伊勢えび街道」が好評であるため、需要の高いイベント実施期間中に集中して出荷することにより、イセエビ単価の向上及び漁業者所得の向上を図る。
- ④ 地元で開催されるイベントなどに参加し、直接販売を行うことで魚価の向上を目指す。

(3) 共同利用施設の整備

- ① 県漁協加工場を活用して、フィレ及びロイン出荷を推進することにより、付加価値を向上させ単価の向上を図る。具体的には魚の下処理の機械化・自動化を図り作業効率を上げることで処理尾数を増加させ、フィレ等高次処理製品の増産を可能とする加工生産体制の構築を目指す。
- ② 漁協荷捌き施設の機能強化を行うことにより、活魚出荷及び鮮魚出荷機能の向上を図り、水産物の単価向上を図る。

2 漁業コスト削減のための取組

(1) 省エネ活動等による省コスト化

- ① 漁業用燃油、養殖用配合飼料の価格の高騰に備え漁業者の支出増解消の為にセーフティネット構築事業への漁業者の更なる加入に努める。
- ② 燃油消費量削減のため、全漁業者が船底の清掃及び減速航行を徹底し、基準年より 10%の燃油消費量削減を目指す。減速を励行するポスターの漁協内の貼り付けや組合員間相互での注意喚起を行う。

(2) 合理化による省コスト化

- ①共同利用施設の効率的な管理・運用に取り組みながら、労務費等に関してもこれまで以上のコスト削減を図る。
- ②コスト削減や魚類の付加価値向上を図り新たなマーケットの開拓や地域ブランドの確立により魚類の安定供給を推進し、もって漁業者の所得向上を目指す。加えて前期に一定の成果を得られた上記以外の各種取組についても、これまでの実績を踏まえた手法の改善等を図りつつ引き続き取り組む。

3 漁村の活性化のための取組

(1) 漁業人材育成

- ①新規就業者の確保及び若手漁業者の育成を推進するため、漁協青年部及び漁業者の活動を支援する。

(2) その他

- ①学校給食等のメニューに地元水産物を積極的に採用してもらうことにより、魚食普及の推進を図る。
- ②地元小中学校への出前授業等を通じて水産業に対する理解を深め、もって魚食普及の推進を図る。

(3) 資源管理に係る取組

- ①禁漁区・禁漁期間を設け水産資源の管理に取り組む。
- ②漁業法、県漁業調整規則、海区調整委員会指示、資源管理協定による規制に加えて漁業者間による自主的な管理等を実施し効果的な資源管理に取り組む。
- ③アワビやアカウニなどの磯根資源の種苗放流を行うことにより、資源添加を図る。
- ④放流効果を高めるために体長制限を設ける等、資源管理に積極的に取り組む。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和6年度）所得向上率（基準年比）3.18%

漁業収入向上のための取組	(1) 漁場の管理・改善の取組 ①小型底曳網漁業者らは、自ら負担してクルマエビ種苗を放流するとともに、放流後の生存率をより高めるため、環境への馴致と食害対策を目的とした放流箇所周辺への囲い網設置を行う。 潜水漁業者らは、自ら負担してアワビ・アカウニ等の種苗放流を、自ら設定した禁漁区を行うことで種苗を保護し、資源の増大を目指す。 一本釣り漁業者は、単価の高いイサキを主体に体長制限を設けて小型魚の保護を行い、資源の維持を図る。 ②潜水漁業者らは、磯焼け対策等の保全活動を積極的に実施することで毎
---------------------	--

	年 0.2ha の藻場面積の増加（回復）を図るため、母藻の設置、食害生物（ウニ類・魚類）の除去、岩盤清掃、モニタリング等の活動に取り組む。また、禁漁区域を設定することで放流事業との相乗効果を得てアワビ、サザエなどの資源の維持増大に努め、水揚げ量の向上を目指す。 ③毎月第2土曜日を一斉休漁日として海を休ませることにより、水産資源の保護に努める。 （2）付加価値向上の取組 ①中小まき網漁業者や小型定置網漁業者らは、廃棄されたり安価で取引されているシイラやニベなどの未・低利用魚について、加工場処理施設の閑散期を利用してフィレに加工処理することにより、学校給食や病院食への提供を可能とし、未・低利用魚の有効活用と単価の向上を図る。 ②養殖漁業者は他地域との競争に勝ち抜くために、大分県特産のカボスを餌に混ぜて差別化し、ブランド化した「かぼすブリ」の安定供給を図るとともに、PR 活動にも努め、付加価値が増すことによる平均単価・漁業収入の向上を目指す。 ③たて網漁業者は、佐伯市観光協会と延岡観光協会が企画する「東九州伊勢えび街道」などのイベント時期の地元飲食店への出荷により、イセエビ単価の向上を図る。併せて観光客誘致にも努める。 ④定期的に地元で開催される朝市「間越来だんせへ市」に参加し、クルマエビやイセエビ等の漁獲物を漁業者が直接販売することで単価の向上を目指す。
漁業コスト削減のための取組	（1）省エネ活動等による省コスト化 ①漁業用燃油、養殖用配合飼料の価格の高騰に備え漁業者の支出増解消の為にセーフティネット構築事業への漁業者の更なる加入に努める。 ②燃油消費量削減のため、全漁業者が船底の清掃及び減速航行を徹底し、基準年より 10%の燃油消費量削減を目指す。減速を励行するポスターの漁協内の貼り付けや組合員間相互での注意喚起を行う。 （2）合理化による省コスト化 ①共同利用施設の効率的な管理・運用に取り組みながら、労務費等に関してもこれまで以上のコスト削減を図る。
漁村の活性化のための取組	（1）漁業人材育成確保 ①漁業による漁村活性化の効果を十分に発揮させるために、行政等と連携し新規就業者の確保、若手漁業者の育成を推進するため漁協青年部及び漁業者の活動を支援する。

	(2) その他の取組 ①学校給食等のメニューに地元水産物を積極的に採用してもらうことにより、魚食普及を推進する。あわせて、学校給食への未・低利用魚の利用促進を図ることにより、漁業所得の向上を図る。 ②地元小中学校への出前授業等を通して、子供達に米水津の魚を自分で捌いて食べる機会を提供することにより、地元水産物のおいしさや水産業の魅力を普及し、将来の漁業後継者獲得につなげる。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） ALPS 処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援（国）

2 年目（令和 7 年度）所得向上率（基準年比） 4. 8 8 %

漁業収入向上のための取組	(1) 漁場の管理・改善の取組 ①小型底曳網漁業者らは、自ら負担してクルマエビ種苗を放流するとともに、放流後の生存率をより高めるため、環境への馴致と食害対策を目的とした放流箇所周辺への囲い網設置を行う。 潜水漁業者らは、自ら負担してアワビ・アカウニ等の種苗放流を、自ら設定した禁漁区に行うことで種苗を保護し、資源の増大を目指す。 一本釣り漁業者は、単価の高いイサキを主体に体長制限を設けて小型魚の保護を行い、資源の維持を図る。 ②潜水漁業者らは、磯焼け対策等の保全活動を積極的に実施することで毎年 0.2ha の藻場面積の増加（回復）を図るため、母藻の設置、食害生物（ウニ類・魚類）の除去、岩盤清掃、モニタリング等の活動に取り組む。また、禁漁区域を設定することで放流事業との相乗効果を得てアワビ、サザエなどの資源の維持増大に努め、水揚げ量の向上を目指す。 ③毎月第 2 土曜日を一斉休漁日として海を休ませることにより、水産資源の保護に努める。 (2) 付加価値向上の取組 ①中小まき網漁業者や小型定置網漁業者らは、廃棄されたり安価で取引されているシイラやニベなどの未・低利用魚について、加工場処理施設の閑散期を利用してフィレに加工処理することにより、学校給食や病院食への提供を可能とし、未・低利用魚の有効活用と単価の向上を図る。 ②養殖漁業者は他地域との競争に勝ち抜くために、大分県特産のカボスを餌に混ぜて差別化し、ブランド化した「かばすブリ」の安定供給を図るとともに、PR 活動にも努め、付加価値が増すことによる平均単価・漁業収入の向上を目指す。
--------------	---

	③たて網漁業者は、佐伯市観光協会と延岡観光協会が企画する「東九州伊勢えび街道」などのイベント時期の地元飲食店への出荷により、イセエビ単価の向上を図る。併せて観光客誘致にも努める。 ④定期的に地元で開催される朝市「間越来だんせへ市」に参加し、クルマエビやイセエビ等の漁獲物を漁業者が直接販売することで単価の向上を目指す。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ①漁業用燃油、養殖用配合飼料の価格の高騰に備え漁業者の支出増解消の為にセーフティネット構築事業への漁業者の更なる加入に努める。 ②燃油消費量削減のため、全漁業者が船底の清掃及び減速航行を徹底し、基準年より 10%の燃油消費量削減を目指す。減速を励行するポスターの漁協内の貼り付けや組合員間相互での注意喚起を行う。 (2) 合理化による省コスト化 ①共同利用施設の効率的な管理・運用に取り組みながら、労務費等に関してもこれまで以上のコスト削減を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成確保 ①漁業による漁村活性化の効果を十分に発揮させるために、行政等と連携し新規就業者の確保、若手漁業者の育成を推進するため漁協青年部及び漁業者の活動を支援する。 (2) その他の取組 ①学校給食等のメニューに地元水産物を積極的に採用してもらうことにより、魚食普及を推進する。あわせて、学校給食への未・低利用魚の利用促進を図ることにより、漁業所得の向上を図る。 ②地元小中学校への出前授業等を通して、子供達に米水津の魚を自分で捌いて食べる機会を提供することにより、地元水産物のおいしさや水産業の魅力を普及し、将来の漁業後継者獲得につなげる。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） ALPS 処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援（国）

3 年目（令和 8 年度）所得向上率（基準年比） 6. 6 1 %

漁業収入向上のための取組	(1) 漁場の管理・改善の取組 ①小型底曳網漁業者らは、自ら負担してクルマエビ種苗を放流するとともに、放流後の生存率をより高めるため、環境への馴致と食害対策を目的とした放流箇所周辺への囲い網設置を行う。
--------------	---

	潜水漁業者らは、自ら負担してアワビ・アカウニ等の種苗放流を、自ら設定した禁漁区に行くことで種苗を保護し、資源の増大を目指す。 一本釣り漁業者は、単価の高いイサキを主体に体長制限を設けて小型魚の保護を行い、資源の維持を図る。 ②潜水漁業者らは、磯焼け対策等の保全活動を積極的に実施することで毎年0.2haの藻場面積の増加（回復）を図るため、母藻の設置、食害生物（ウニ類・魚類）の除去、岩盤清掃、モニタリング等の活動に取り組む。また、禁漁区域を設定することで放流事業との相乗効果を得てアワビ、サザエなどの資源の維持増大に努め、水揚げ量の向上を目指す。 ③毎月第2土曜日を一斉休漁日として海を休ませることにより、水産資源の保護に努める。 （2）付加価値向上の取組 ①中小まき網漁業者や小型定置網漁業者らは、廃棄されたり安価で取引されているシイラやニベなどの未・低利用魚について、加工場処理施設の閑散期を利用してフィレに加工処理することにより、学校給食や病院食への提供を可能とし、未・低利用魚の有効活用と単価の向上を図る。 ②養殖漁業者は他地域との競争に勝ち抜くために、大分県特産のカボスを餌に混ぜて差別化し、ブランド化した「かぼすブリ」の安定供給を図るとともに、PR活動にも努め、付加価値が増すことによる平均単価・漁業収入の向上を目指す。 ③たて網漁業者は、佐伯市観光協会と延岡観光協会が企画する「東九州伊勢えび街道」などのイベント時期の地元飲食店への出荷により、イセエビ単価の向上を図る。併せて観光客誘致にも努める。 ④定期的に地元で開催される朝市「間越来だんせへ市」に参加し、クルマエビやイセエビ等の漁獲物を漁業者が直接販売することで単価の向上を目指す。 （3）共同利用施設の整備 ①県漁協加工場（米水津）におけるフィレ及びロイン出荷の増産を図るため、作業効率の向上につながる新たな加工機器の導入について検討を行う。（1年目） ②漁協荷捌き施設の機能強化を図るため、施設及び機器の改修について検討を行う。（1年目）
漁業コスト削減のための取組	（1）省エネ活動等による省コスト化 ①漁業用燃油、養殖用配合飼料の価格の高騰に備え漁業者の支出増解消の為にセーフティネット構築事業への漁業者の更なる加入に努める。 ②燃油消費量削減のため、全漁業者が船底の清掃及び減速航行を徹底し、

	基準年より 10%の燃油消費量削減を目指す。減速を励行するポスターの漁協内の貼り付けや組合員間相互での注意喚起を行う。 (2) 合理化による省コスト化 ①共同利用施設の効率的な管理・運用に取り組みながら、労務費等に関してもこれまで以上のコスト削減を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成確保 ①漁業による漁村活性化の効果を十分に発揮させるために、行政等と連携し新規就業者の確保、若手漁業者の育成を推進するため漁協青年部及び漁業者の活動を支援する。 (2) その他の取組 ①学校給食等のメニューに地元水産物を積極的に採用してもらうことにより、魚食普及を推進する。あわせて、学校給食への未・低利用魚の利用促進を図ることにより、漁業所得の向上を図る。 ②地元小中学校への出前授業等を通して、子供達に米水津の魚を自分で捌いて食べる機会を提供することにより、地元水産物のおいしさや水産業の魅力を普及し、将来の漁業後継者獲得につなげる。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） 水産業強化支援事業（国） ALPS 処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援（国）

4 年目（令和 9 年度）所得向上率（基準年比） 8. 3 8 %

漁業収入向上のための取組	(1) 漁場の管理・改善の取組 ①小型底曳網漁業者らは、自ら負担してクルマエビ種苗を放流するとともに、放流後の生存率をより高めるため、環境への馴致と食害対策を目的とした放流箇所周辺への囲い網設置を行う。 潜水漁業者らは、自ら負担してアワビ・アカウニ等の種苗放流を、自ら設定した禁漁区に行うことで種苗を保護し、資源の増大を目指す。 一本釣り漁業者は、単価の高いイサキを主体に体長制限を設けて小型魚の保護を行い、資源の維持を図る。 ②潜水漁業者らは、磯焼け対策等の保全活動を積極的に実施することで毎年 0.2ha の藻場面積の増加（回復）を図るため、母藻の設置、食害生物（ウニ類・魚類）の除去、岩盤清掃、モニタリング等の活動に取り組む。また、禁漁区域を設定することで放流事業との相乗効果を得てアワビ、サザエなどの資源の維持増大に努め、水揚げ量の向上を目指す。
--------------	--

	③毎月第2土曜日を一斉休漁日として海を休ませることにより、水産資源の保護に努める。 (2) 付加価値向上の取組 ①中小まき網漁業者や小型定置網漁業者らは、廃棄されたり安価で取引されているシイラやニベなどの未・低利用魚について、加工場処理施設の閑散期を利用してフィレに加工処理することにより、学校給食や病院食への提供を可能とし、未・低利用魚の有効活用と単価の向上を図る。 ②養殖漁業者は他地域との競争に勝ち抜くために、大分県特産のカボスを餌に混ぜて差別化し、ブランド化した「かぼすブリ」の安定供給を図るとともに、PR活動にも努め、付加価値が増すことによる平均単価・漁業収入の向上を目指す。 ③たて網漁業者は、佐伯市観光協会と延岡観光協会が企画する「東九州伊勢えび街道」などのイベント時期の地元飲食店への出荷により、イセエビ単価の向上を図る。併せて観光客誘致にも努める。 ④定期的に地元で開催される朝市「間越来だんせへ市」に参加し、クルマエビやイセエビ等の漁獲物を漁業者が直接販売することで単価の向上を目指す。 (3) 共同利用施設の整備 ①県漁協加工場（米水津）におけるフィレ及びロイン出荷の増産を図るため、作業効率の向上につながる新たな加工機器導入の計画を策定する。（2年目） ②漁協荷捌き施設の機能強化を図るため、施設及び機器の改修についての計画を策定する。（2年目）
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ①漁業用燃油、養殖用配合飼料の価格の高騰に備え漁業者の支出増解消の為にセーフティネット構築事業への漁業者の更なる加入に努める。 ②燃油消費量削減のため、全漁業者が船底の清掃及び減速航行を徹底し、基準年より10%の燃油消費量削減を目指す。減速を励行するポスターの漁協内の貼り付けや組合員間相互での注意喚起を行う。 (2) 合理化による省コスト化 ①共同利用施設の効率的な管理・運用に取り組みながら、労務費等に関してもこれまで以上のコスト削減を図る。

漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成確保 ①漁業による漁村活性化の効果を十分に発揮させるために、行政等と連携し新規就業者の確保、若手漁業者の育成を推進するため漁協青年部及び漁業者の活動を支援する。 (2) その他の取組 ①学校給食等のメニューに地元水産物を積極的に採用してもらうことにより、魚食普及を推進する。あわせて、学校給食への未・低利用魚の利用促進を図ることにより、漁業所得の向上を図る。 ②地元小中学校への出前授業等を通して、子供達に米水津の魚を自分で捌いて食べる機会を提供することにより、地元水産物のおいしさや水産業の魅力を普及し、将来の漁業後継者獲得につなげる。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） 水産業強化支援事業（国） ALPS 処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援（国）

5 年目（令和 10 年度）所得向上率（基準年比） 10. 17 %

漁業収入向上のための取組	(1) 漁場の管理・改善の取組 ①小型底曳網漁業者らは、自ら負担してクルマエビ種苗を放流するとともに、放流後の生存率をより高めるため、環境への馴致と食害対策を目的とした放流箇所周辺への囲い網設置を行う。 潜水漁業者らは、自ら負担してアワビ・アカウニ等の種苗放流を、自ら設定した禁漁区に行うことで種苗を保護し、資源の増大を目指す。 一本釣り漁業者は、単価の高いイサキを主体に体長制限を設けて小型魚の保護を行い、資源の維持を図る。 ②潜水漁業者らは、磯焼け対策等の保全活動を積極的に実施することで毎年 0.2ha の藻場面積の増加（回復）を図るため、母藻の設置、食害生物（ウニ類・魚類）の除去、岩盤清掃、モニタリング等の活動に取り組む。また、禁漁区域を設定することで放流事業との相乗効果を得てアワビ、サザエなどの資源の維持増大に努め、水揚げ量の向上を目指す。 ③毎月第 2 土曜日を一斉休漁日として海を休ませることにより、水産資源の保護に努める。 (2) 付加価値向上の取組 ①中小まき網漁業者や小型定置網漁業者らは、廃棄されたり安価で取引されているシイラやニベなどの未・低利用魚について、加工場処理施設の
--------------	---

	閑散期を利用してフィレに加工処理することにより、学校給食や病院食への提供を可能とし、未・低利用魚の有効活用と単価の向上を図る。 ②養殖漁業者は他地域との競争に勝ち抜くために、大分県特産のカボスを餌に混ぜて差別化し、ブランド化した「かぼすブリ」の安定供給を図るとともに、PR 活動にも努め、付加価値が増すことによる平均単価・漁業収入の向上を目指す。 ③たて網漁業者は、佐伯市観光協会と延岡観光協会が企画する「東九州伊勢えび街道」などのイベント時期の地元飲食店への出荷により、イセエビ単価の向上を図る。併せて観光客誘致にも努める。 ④定期的に地元で開催される朝市「間越来だんせへ市」に参加し、クルマエビやイセエビ等の漁獲物を漁業者が直接販売することで単価の向上を目指す。 (3) 共同利用施設の整備 ①県漁協加工場（米水津）におけるフィレ及びロイン出荷の増産を図るため、作業効率の向上につながる新たな加工機器の整備を行う。（3年目） ②漁協荷捌き施設の機能強化を図るため、施設及び機器の改修を行う。（3年目）
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ①漁業用燃油、養殖用配合飼料の価格の高騰に備え漁業者の支出増解消の為にセーフティネット構築事業への漁業者の更なる加入に努める。 ②燃油消費量削減のため、全漁業者が船底の清掃及び減速航行を徹底し、基準年より 10%の燃油消費量削減を目指す。減速を励行するポスターの漁協内の貼り付けや組合員間相互での注意喚起を行う。 (2) 合理化による省コスト化 ①共同利用施設の効率的な管理・運用に取り組みながら、労務費等に関してもこれまで以上のコスト削減を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成確保 ①漁業による漁村活性化の効果を十分に発揮させるために、行政等と連携し新規就業者の確保、若手漁業者の育成を推進するため漁協青年部及び漁業者の活動を支援する。 (2) その他の取組 ①学校給食等のメニューに地元水産物を積極的に採用してもらうことにより、魚食普及を推進する。あわせて、学校給食への未・低利用魚の利用促進を図ることにより、漁業所得の向上を図る。

	②地元小中学校への出前授業等を通して、子供達に米水津の魚を自分で捌いて食べる機会を提供することにより、地元水産物のおいしさや水産業の魅力を普及し、将来の漁業後継者獲得につなげる。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） 水産業強化支援事業（国） ALPS 処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援（国）

（５）関係機関との連携

- ・行政（大分県、佐伯市）と県漁協本店及び同漁協佐伯市内各支店との連携を強化にする。
- ・県内外の流通関係者についても新たな連携を模索する。

（６）取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の成果を評価・分析するため、委員会は毎年度末にチェックシートを作成し、取組の進捗や経年推移を確認する。
 チェックシートは、大分県水産業普及指導員及び佐伯市水産課職員による検証を行い、専門的な知見からの助言を得て、評価・分析手法の改善を図る。
 毎年度末に開催する会員会議においてチェックシートの内容を周知し、評価・分析結果の共有を図るとともに、最終年度は、５年間の取組結果を取りまとめの上、評価・検証し、次期プランの策定に向けての方向性を決定する。

４ 目標

（１）所得目標

漁業者の所得の向上 10%以上	基準年	
	目標年	

（２）上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

① 省燃油活動の推進 ② 藻場面積の増加（回復） ③ かぼすブリ出荷量の安定 ④ 低・未利用魚の給食用出荷量の増加	基準年	令和4年度	① 燃油削減率 10% ② 藻場面積 35.4ha ③ 生産量 139.5 t ④ 給食用出荷量 0 kg
	目標年	令和10年度：	① 燃油削減率 10% ② 藻場面積 36.4ha（1.0ha 増） ③ 生産量 265.7 t ④ 給食用出荷量 112.6 kg
⑤ 新規就業者の継続的な確保	基準年	平成30年度～令和4年度	延べ 11人
	目標年	令和6年度～令和10年度	延べ 15人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

①・②別紙各取組の算定根拠参照			
③【基準年度】 かぼすブリ生産量		養殖ブリ生産量	
R4	139.5 t	／	1,265.2 t = 11.0%
R10	265.7 t	／	1,265.2 t = 21.0%
養殖ブリ生産量のうちかぼすブリが占める割合を 10%増加させる。			
養殖ブリ生産量については年で増減があるため、R4 の生産量を採用した。			
④【基準年度】 給食出荷量		低・未利用魚の水揚量	
R4	0 kg	／	1,126 kg = 0.00%
R10	112.6 kg	／	1,126 kg = 10.0%
低・未利用魚の給食出荷量が占める割合を 10%増加させる。			
低・未利用魚の水揚量については年で増減があるため、R4 の生産量を採用した。			
⑤本地区において、平成30年度～令和4年度の新規就業者数は延べ 11 人であった。令和6～10年度の5年間において、新規就業者を延べ 15 人確保することを目指す。なお、各地区が今後確保する新規就業者数の長期目標は、令和6年度中に策定予定の新たな大分県農林水産業振興計画に盛り込むことも検討されているところである。			

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
-----	----------------------

① 漁業経営セーフティネット構築事業	燃油高騰による漁業経費の増加に備えることにより漁業所得の安定を図る。
② 水産業強化支援事業	共同利用施設（水産加工処理施設、荷捌施設）の整備を実施し漁業コスト削減と漁業所得の向上を図る。
③ 水産多面的機能発揮対策事業	温暖化等の影響で減少している藻場の保全活動等を実施し、藻場資源の維持増大による地域水産業の再生と漁村の活性化を図る。
④ ALPS 処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業	ALPS 処理水海洋放出の影響のある漁業者が、売上高工場又は基本コスト削減により持続可能な漁業継続を実現するために、創意工夫を凝らして事業に取り組む。